Veritas NetBackup™ バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド

リリース 8.0

VERITAS™

Veritas NetBackup™ バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド

マニュアルバージョン: 2.7.1

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを有しています。テクニカルサポートの主な役割は、製品の特徴や機能に関する具体的な問い合わせに対応することです。テクニカルサポートグループは、オンラインナレッジベースのコンテンツも作成します。テクニカルサポートグループは、その他の部門と連携して、迅速にお客様の質問に回答します。

ベリタスが提供しているメンテナンスには、次のものが含まれます。

- 任意のサイズの組織に合わせた適切な量のサービスを選択できる柔軟性を備えた幅広いサポートオプション
- 迅速な応答と最新の情報を提供する、電話および/または Web によるサポート
- ソフトウェアアップグレードを配信するアップグレード保証
- 各地域の営業時間、または年中無休の 24 時間体制のグローバルサポートを購入可能
- アカウント管理サービスを含むプレミアムサービスの提供

ベリタスが提供しているメンテナンスについて詳しくは、次の URL の Web サイトを参照してください。

www.veritas.com/support

すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

テクニカルサポートへの連絡

現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

www.veritas.com/support

テクニカルサポートに連絡する前に、製品のマニュアルに一覧表示されているシステム要件を満たしていることを確認します。

テクニカルサポートに連絡するときは、次の情報が使用できるようにしてください。

- 製品のリリースレベル
- ハードウエア情報
- 使用可能なメモリ、ディスク容量および NIC の情報
- オペレーティングシステム
- バージョンおよびパッチレベル
- ネットワークトポロジー

- ルーター、ゲートウェイおよび IP アドレスの情報
- 問題の説明:
  - エラーメッセージとログファイル
  - テクニカルサポートに連絡する前に行ったトラブルシューティング
  - 最近のソフトウェア構成の変更およびネットワーク変更

ライセンスおよび登録

製品の登録またはライセンスキーが必要な場合には、次の URL にあるテクニカルサポートの Web ページにアクセスします。

www.veritas.com/support

カスタマーサービス

カスタマーサービスの情報は次の URL で利用できます。

www.veritas.com/support

カスタマーサービスは、次の問題のような技術的でない質問に利用可能です。

- 製品のライセンスまたはシリアル化に関する質問
- 住所または名前変更のような製品登録の更新
- 製品の一般情報(機能、対応言語、地域の取り扱い業者)
- 製品の更新およびアップグレードについての最新情報
- アップグレード保証およびサポート契約についての情報
- テクニカルサポートのオプションに関するアドバイス
- 発売前の技術的なことではない質問
- CD-ROM、DVD、またはマニュアルと関連した問題

サポート契約のリソース

既存のサポート契約に関してベリタス社にお問い合わせの際は、次に記載する対象地域のサポート契約管理チームにお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)	CustomerCare@veritas.com
日本	CustomerCare_Japan@veritas.com

目次

テクニカルサポート 3

第 1 章 概要 7

バックアップ、アーカイブおよびリストアについて 7
バックアップについて 7
アーカイブについて 8
リストアについて 8
ポリシーについて 8
バックアップイメージについて 8
インストールおよび構成について 9
オンラインヘルプについて 9

第 2 章 開始 10

UNIX システムの設定について 10
UNIX ウィンドウマネージャの設定について 10
共通デスクトップ環境 (CDE) の設定 11
Motif に対する設定 11
バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について 12
UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動 12
NetBackup 管理コンソールの実行 13
Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動 13
バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン 13

第 3 章 バックアップまたはアーカイブ 18

ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ 18

第 4 章 リストア 26

ファイルおよびディレクトリのリストア 26

1

概要

この章では以下の項目について説明しています。

- バックアップ、アーカイブおよびリストアについて
- インストールおよび構成について
- オンラインヘルプについて

バックアップ、アーカイブおよびリストアについて

このマニュアルでは、NetBackup の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、コンピュータ上の NetBackup クライアントソフトウェアのインターフェースです。NetBackup では、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブおよびリストアすることができます。

バックアップかリストアが必要なコンピュータをクライアントといいます。データのバックアップと取得を管理するコンピュータをサーバーといいます。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、システムで動作するように構成する必要があります。NetBackup 管理者がインストール処理の間にそれを行うことがあります。

バックアップについて

バックアップでは、選択した項目が宛先ドライブにコピーされ、元のファイルはソースドライブに残されます。

バックアップ操作を開始すると、バックアップ対象のデータは、コンピュータ上のクライアントソフトウェアによって NetBackup サーバーに送信されます。その後、データはサーバーからストレージデバイスに書き込まれます。

アーカイブについて

アーカイブでは、選択した項目が宛先ドライブにコピーされ、バックアップが正常に行われた後、その項目がソースドライブから削除されます。

アーカイブ操作を開始すると、バックアップ対象のデータは、コンピュータ上のクライアントソフトウェアによって NetBackup サーバーに送信されます。その後、データはサーバーからストレージデバイスに書き込まれ、元のファイルはソースドライブから削除されます。

リストアについて

リストアでは、選択した項目がサーバーのバックアップイメージから取得され、コンピュータ上にリストアされます。

リストア操作を開始すると、コンピュータ上のクライアントソフトウェアから NetBackup サーバーに対してデータが要求されます。サーバーはクライアントにデータを送信し、このデータを利用してリストアが行われます。バックアップイメージはサーバーに残ります。

ポリシーについて

NetBackup 管理者は、ポリシーを構成します。ポリシーとは、NetBackup がクライアントをバックアップするときに従う規則の定義です。

ポリシーには、NetBackup クライアントの自動的な無人バックアップのスケジュールを設定できます (サーバー主導バックアップ)。

また、ポリシーには、ファイルのバックアップを手動で実行可能な時間帯を定義できます (ユーザー主導バックアップ)。

たとえば、ユーザー主導のバックアップを実行可能な時間範囲 (ユーザー処理時間帯) が午前 8 時から午後 6 時であるとします。これ以外の時間帯には、ユーザーはバックアップまたはアーカイブを実行できません (ファイルのリストアはいつでも実行できます)。

バックアップイメージについて

1 つのジョブによってバックアップされたすべての項目は、バックアップイメージに格納されます。ファイルのリストアを行う場合、1 つまたは複数のバックアップイメージからリストア対象の項目を選択します。

(NetBackup 管理者が構成する) 一定の期間が経過すると、バックアップイメージの期限が切れる場合があります。期限が切れたバックアップイメージのファイルは、参照またはリストアできません。

インストールおよび構成について

通常、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをインストールおよび構成するのは、NetBackup 管理者です。インストールと構成には次が含まれます。

- コンピュータ環境内のバックアップ対象となるコンピュータ上に、NetBackup クライアントソフトウェアおよびバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをインストールして構成します。
- コンピュータ環境内で NetBackup サーバーと連携して動作するようにクライアントソフトウェアを構成します。

NetBackup 環境でユーザー主導の操作が許可されている場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを構成する必要はありません。

構成への変更が必要な場合は、NetBackup 管理者に連絡してください。

オンラインヘルプについて

このマニュアルでは、バックアップ、アーカイブおよびリストアタスクの基本的な手順について説明します。詳細情報はヘルプで利用可能です。

[ヘルプ (Help)]メニューからオンラインヘルプを開くか、またはダイアログボックスの[ヘルプ (Help)]アイコンをクリックします。

次の表に、ヘルプで利用可能な情報の一部を示します。

バックアップとアーカイブのトピック	■ バックアップとアーカイブの形式 ■ ユーザー主導バックアップ ■ サーバー主導バックアップ ■ 完全バックアップ ■ 累積増分バックアップ ■ 差分増分バックアップ ■ True Image Backup
リストアのトピック	■ リストアの宛先 ■ リストアオプション ■ 特定の日付からのリストア ■ True Image Backup のリストア ■ 代替クライアントへのリダイレクトリストア (管理者のみ)
その他のトピック	■ リストアを行う項目の検索手順 ■ 他のバックアップサーバーを指定する手順 (ご使用の環境で許可されている場合) ■ ウィンドウ、メニューおよびダイアログボックスのインターフェースの参照項目

2

開始

この章では以下の項目について説明しています。

- UNIX システムの設定について
- バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について
- バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン

UNIX システムの設定について

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使い始める前に、UNIX 環境が正しく設定されていることを確認してください。

UNIX、Linux および Macintosh OS X システムの場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、Java ベースのグラフィカルユーザーインターフェースです。

以降の項で、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェース用に UNIX 環境を設定する方法について説明します。

p.10 の「UNIX ウィンドウマネージャの設定について」を参照してください。

p.11 の「共通デスクトップ環境 (CDE) の設定」を参照してください。

p.11 の「Motif に対する設定」を参照してください。

UNIX ウィンドウマネージャの設定について

ウィンドウ内をクリックすることでウィンドウがアクティブになるようにウィンドウマネージャを設定します。

自動フォーカスは有効にしないでください。自動フォーカスを有効にした場合、マウスのポインタをウィンドウ上に移動すると、そのウィンドウがアクティブになります。
NetBackup-Java インターフェースは、自動フォーカスを有効にしていると適切に実行されません。

UNIX の他のインターフェース

NetBackup は UNIX システムに追加インターフェースを提供します。

次のインターフェースを使用してユーザー主導の操作を実行できます。ただし、ユーザー主導の操作にはバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの使用をお勧めします。

メニューユーザーインターフェース (MUI)	このインターフェースは、クライアントシステムに接続可能な端末で使用できます。メニューインターフェースプログラムは、bp コマンドによって起動します。 MUI を使う方法についてはインターフェースの bp のマニュアルページとヘルプを参照してください。
コマンドラインインターフェース (CLI)	コマンドを使用すると、シェルプロンプトでバックアップ、アーカイブおよびリストア操作を実行できます。 コマンド情報については、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

共通デスクトップ環境 (CDE) の設定

NetBackup Java アプリケーションには、CDE ウィンドウマネージャが推奨されています。

CDE ウィンドウマネージャを設定するには次の手順を使用します。

CDE をバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェース用に構成する方法

1. CDE ウィンドウのフロントパネルで、[スタイル・マネージャ]アイコンをクリックします。
2. スタイルマネージャのツールバーで、[ウィンドウ]アイコンをクリックします。
3. [スタイル・マネージャ - ウィンドウ]ダイアログボックスで、[クリックでウィンドウをアクティブに]をクリックします。
4. [OK]をクリックします。
5. ワークスペースマネージャを再起動するかどうかの確認メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

Motif に対する設定

Motif ウィンドウマネージャを使用するには、次の手順に従います。

Motif に対して設定する方法

- X リソースの `Mwm*keyboardFocusPolicy` を次のように設定します。

```
Mwm*keyboardFocusPolicy:explicit
```

バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、次の方法で起動して実行できます。

UNIX NetBackup クライアントの場合	p.12 の「UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動」を参照してください。
Windows コンピュータの UNIX NetBackup クライアントの場合	p.13 の「NetBackup 管理コンソールの実行」を参照してください。
Windows NetBackup クライアントの場合	p.13 の「Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動」を参照してください。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースおよびその使用方法について詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、ユーザーアカウントが存在する UNIX システム上で NetBackup クライアントにログインできます。バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースからは、そのクライアント上でのバックアップ、アーカイブおよびリストアを実行できます。

メモ: `jbpSA` コマンドのオプションについて詳しくは、`jbpSA` のマニュアルページを参照してください。

UNIX でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動する方法

1. バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを実行するコンピュータにログインします。
2. バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動するには、次のコマンドを入力します。

   ```
   /usr/openv/netbackup/bin/jbpSA &
   ```

3. [ログイン (Login)]ダイアログボックスで、バックアップ、アーカイブまたはリストアを実行するクライアントの名前を入力します。

   そのクライアントに対して有効なユーザーアカウントおよびアクセス権が必要です。
4. ユーザー名を入力します。

5 パスワードを入力します。

6 [ログイン (Login)]をクリックします。

NetBackup 管理コンソールの実行

Microsoft Windows システムに管理コンソールがインストールされている場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをコンソールから直接実行できます。このインターフェースを使用すると、NetBackup Windows または UNIX クライアントにログインして、そのクライアント上でのユーザー主導の操作を実行できます。NetBackup メニューから旧バージョンのクライアントを開始することもできます。

管理コンソールを開始する方法

1 [スタート]で[プログラム]、[Veritas NetBackup] > [NetBackup 管理コンソール (NetBackup Administration Console)]の順に選択します。

[旧バージョンの管理コンソール (Back-Level Administration Console)] フォルダを開いて、旧バージョンの管理コンソールを起動することもできます。

2 バックアップ、アーカイブまたはリストアを実行するクライアントの名前を入力します。

そのクライアントに対して有効なユーザーアカウントおよびアクセス権が必要です。

3 ユーザー名およびパスワードを入力します。

4 [ログイン (Login)]をクリックします。

Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動

Windows システムでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動するには次の手順を使用します。

Windows システムでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動する方法

1 [スタート] > [プログラム] > [Veritas NetBackup] > [バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]をクリックします。

2 NetBackup のアクセス管理を使用して NetBackup 環境へのアクセスを制御している場合は、ユーザー名、パスワードおよびドメイン情報の入力が必要となる場合があります。

バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン

表 2-1に、Microsoft Windows のデスクトップに表示される NetBackup アイコンを示します。

表 2-1 Windows デスクトップのバックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン

アイコン	説明
	バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを表します。Windows の[スタート]メニューおよび Windows エクスプローラに表示されます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行されていても、バックアップまたはリストアが行われていないことを示します。システムトレーに表示されます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のリストア処理が行われていることを示します。システムトレーに表示されます。黄色い矢印が点滅している場合、NetBackup Client Job Tracker を開いてリストア操作の状況を確認することができます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のバックアップ処理が行われていることを示します。システムトレーに表示されます。黄色い矢印が点滅している場合、NetBackup Client Job Tracker を開いてバックアップ操作の状況を確認することができます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のバックアップ処理および 1 つ以上のリストア処理が行われていることを示します。システムトレーに、黄色い矢印が点滅している状態で表示されます。

表 2-2 に、Windows で表示されるツールバーのアイコンを示します。

表 2-2 Windows のバックアップ、アーカイブおよびリストアのツールバーアイコン

アイコン	説明
	[バックアップ (Backup)]ウィンドウを開き、バックアップする項目にマーク付けできます。
	[リストア (Restore)]ウィンドウを開き、リストアする項目にマーク付けできます。
	[状態の表示 (View Status)]ダイアログボックスを開き、ユーザー操作の進捗を監視できます。
	[リストア (Restore)]ウィンドウの[NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインのバックアップイメージを更新します。この機能は、[リストア (Restore)]ウィンドウが表示され、アクティブである場合だけ使用できます。
	[トラブルシュータ (Troubleshooter)]を開きます。

アイコン	説明
	バックアップ、アーカイブおよびリストアのヘルプを開きます。

表 2-3では、インターフェース全体で表示されるアイコンについて説明します。

表 2-3　バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン

アイコン	説明
	バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン。
	バックアップアイコン。
	リストアアイコン。
	Windows でフロッピーディスクドライブを表します。
	Windows で CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブを表します。
	Windows でネットワークドライブを表します。
	Windows でクライアント PC を表します。
	閉じたディレクトリ (フォルダ) を表します。他の項目が含まれている場合と含まれていない場合があります。
	開いたディレクトリ (フォルダ) を表します。他の項目が含まれている場合と含まれていない場合があります。
	バックアップまたはリストアの対象として、すべての内容がマーク付けされているファイルまたはディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象として、内容の一部がマーク付けされているディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象としてマーク付けされていないファイルまたはディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象としてすべての内容がマーク付けされていても、それ自体はマーク付けができない項目を表します。

アイコン	説明
	バックアップまたはリストアの対象として内容の一部がマーク付けされていても、それ自体はマーク付けができない項目を表します。
	それ自体はバックアップまたはリストアの対象としてマーク付けできないが、バックアップまたはリストアの対象としてマーク付け可能な項目を含む項目を表します。
	内容の一部がバックアップされたディレクトリ (フォルダ) を表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で Java ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で Java クラスファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI でプログラムファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で HTML ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で UNIX リンクを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で読み取り専用ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI でテキストファイルを表します。
	ファイルを表します。Microsoft Windows では、他のアイコンを使用して、さまざまなファイル形式を表す場合があります。
	UNIX と Linux の Java GUI でビットマップ、GIF またはアイコンファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で実行中のバックアップまたはリストアを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で正常なバックアップまたはリストアを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で失敗したバックアップまたはリストアを表します。
	Windows で複数の Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows のシステムサービスを表します。

アイコン	説明
	Windows で Windows のシステム状態を表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーユーザーデータを表します。
	Windows で複数の Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーライターを表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーコンテナを表します。
	Windows で 1 つの Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows レジストリ全体を表します。 レジストリは、HKEY_LOCAL_MACHINE および HKEY_USERS の 2 つの基本キーに対して表示されます。
	Windows でレジストリキーを表します。
	Windows で Windows のブートファイルを表します。
	Windows で Windows COM データベースを表します。
	Windows でネットワーク全体を表します。
	Windows で特定のネットワークを表します。
	Windows でネットワーク内のドメインを表します。

3

バックアップまたはアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ

ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ

バックアップでは、項目は別のドライブまたはストレージデバイスにコピーされます。元のファイルはソースドライブに残ります。

アーカイブの場合も、項目は別のドライブまたはストレージデバイスにコピーされます。バックアップが正常終了すると、元のファイルはソースドライブから削除されます。

次の項目をバックアップまたはアーカイブすることができます。

UNIX および Linux	■ ファイル ■ ディレクトリ ■ パーティション

Windows

- ファイル
- フォルダ
- ボリューム
- レジストリキー
- システム状態コンポーネント
- システムサービスコンポーネント
- EFI システムパーティション (IA64 システムのみ)
- シャドウコピーコンポーネント

メモ: IA64 システムでは、シャドウコピーのバックアップにシステム状態コンポーネントと EFI システムパーティションが自動的に含まれます。システム状態コンポーネントのみをバックアップする場合には、正常にバックアップするために EFI システムパーティションも選択する必要があります。

次の手順を使用すると、ユーザー主導の (手動の) バックアップまたはアーカイブ操作を実行できます。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの使用方法について詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

バックアップ、アーカイブおよびリストアを使用してバックアップまたはアーカイブする方法

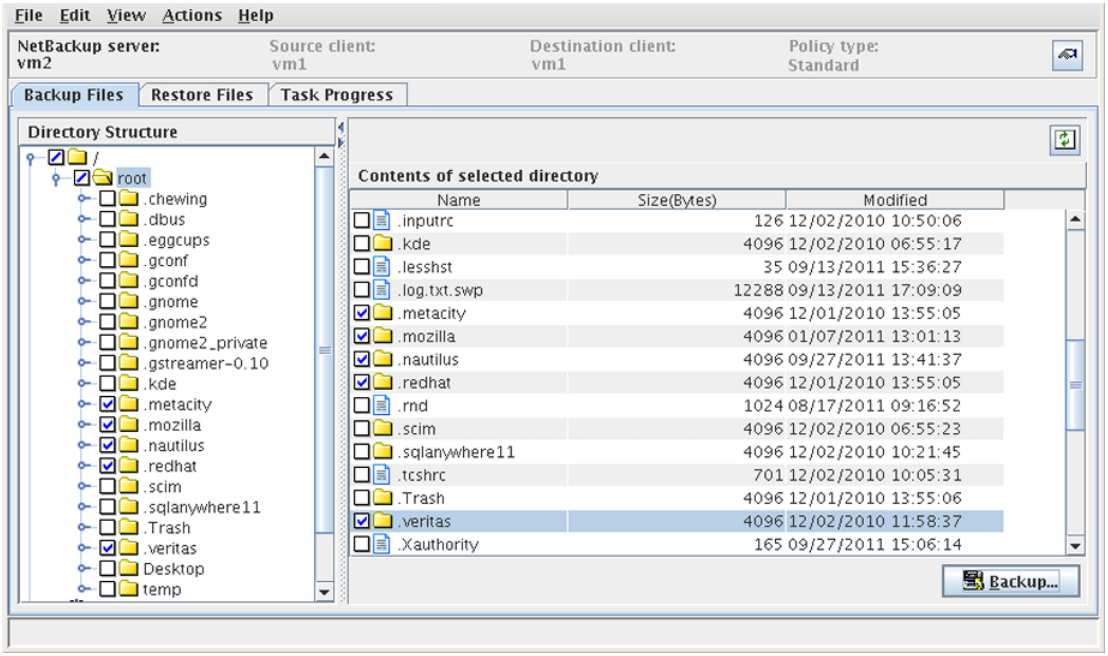
1 該当するプラットフォームに対して、次のとおりバックアップを開始します。

UNIX および Linux ［バックアップ (Backup Files)］タブをクリックします。

メニューバーの下の領域には、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- NetBackup サーバー
- ソースクライアント
- 宛先クライアント
- ポリシー形式 (Policy type)

次に、［バックアップ (Backup Files)］タブの例を示します。



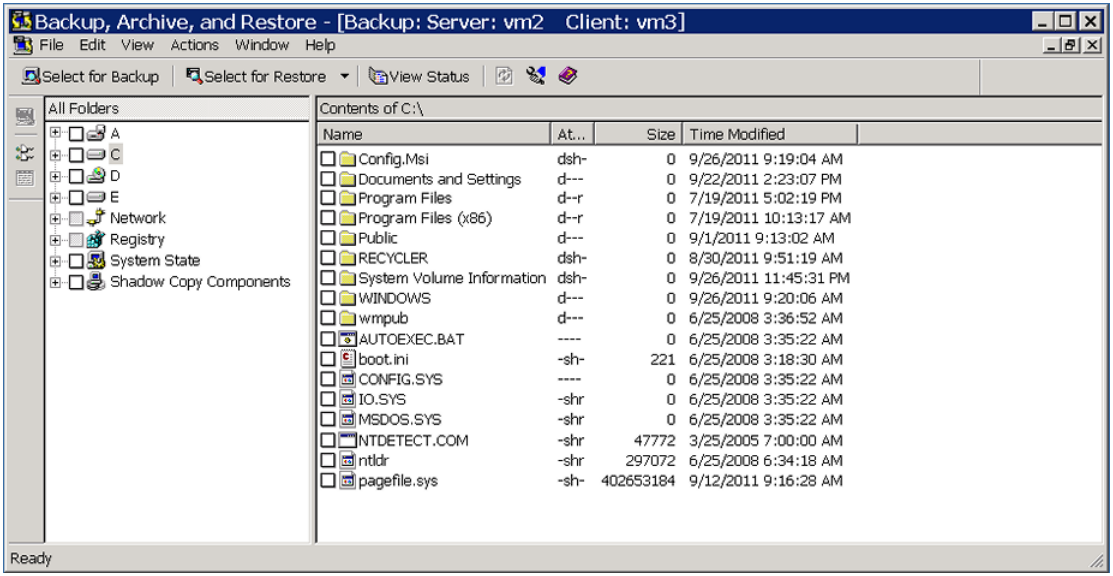
Windows

[バックアップ (Backup)]ウィンドウを開くには、[ファイル (File)]>[バックアップするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Backup)] をクリックするか、または[バックアップの選択 (Select for Backup)]アイコンをクリックします。

ウィンドウのタイトルバーには、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- サーバー
- クライアント (Client)

次に、バックアップ処理時間帯の例を示します。



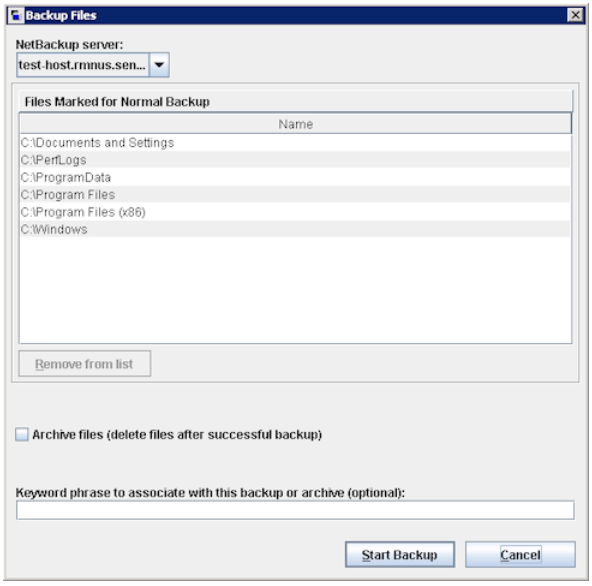
2 バックアップする項目を選択するには、画面で項目の左側にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。

個々の項目の隣にあるチェックマークは、それらの項目が選択されていることを示します。ディレクトリ (フォルダ) の隣のチェックマークは、ディレクトリのすべての項目が選択されていることを示します。ディレクトリの隣のスラッシュマークは、その中の一部の項目のみが選択されていることを示します。

3 選択した項目のバックアップ方法を設定するには、次の操作を実行します。

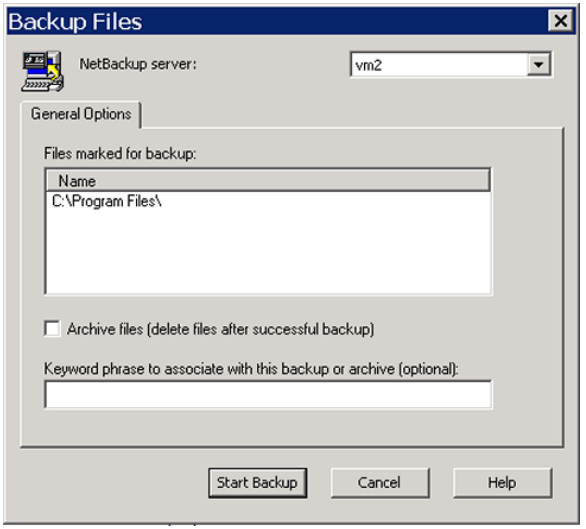
UNIX および Linux　[バックアップ (Backup)]ボタンをクリックします。

次に、[バックアップ (Backup Files)]ダイアログボックスの例を示します。



Windows　[処理 (Actions)]>[バックアップ (Backup)]をクリックします。

次に、[バックアップ (Backup Files)]ダイアログボックスの例を示します。


Backup Files
NetBackup server:
vm2
General Options
Files marked for backup:
Name
C:\Program Files\
Archive files (delete files after successful backup)
Keyword phrase to associate with this backup or archive (optional):
Start Backup
Cancel
Help

4 ［バックアップ (Backup Files)］ダイアログボックスで、次のオプションのいずれかを選択または指定します。

NetBackup サーバー	ドロップダウンメニューから別のサーバーを選択して、バックアップ操作が実行される NetBackup サーバーを変更できます。 通常、別のマスターサーバーを指定する必要はありません。ただし、複数のマスターサーバーにバックアップを送信できる場合は、正しいマスターサーバーを指定していることを確認してください。
リストからの削除 (Remove from list)(UNIX のみ)	［通常バックアップ用にマークされたファイル (Files Marked for Normal Backup)］リストには、バックアップのためにマークを付けたすべての項目が表示されます。削除する項目がある場合、その項目をクリックした後、このオプションをクリックします。
ファイルをアーカイブする (バックアップが正常に終了した後でファイルを削除する)(Archive files (delete files after successful backup))	バックアップが正常に行われた後で、ソースドライブから自動的に項目を削除します。
このバックアップまたはアーカイブと関連付けるキーワード句 (オプション)(Keyword phrase to associate with this backup or archive (optional))	バックアップにキーワード句を関連付けるには、その情報をここに入力します。後でこれらのファイルのリストアを行う場合、バックアップされた項目をこのキーワード句で検索できます。

5 ［バックアップの開始 (Start Backup)］をクリックします。

6 バックアップの進捗状況を表示するには、次の操作を実行します。

Windows システムの場合:	表示される［状態の表示 (View Status)］ダイアログボックスで、［はい (Yes)］をクリックします。
UNIX システムの場合:	表示される［タスクの進捗 (Task Progress)］タブで、［はい (Yes)］をクリックします。

メモ: バックアップジョブの進捗ログはデフォルトのログファイルに格納されます。ジョブのデフォルトのログファイルのパスは［タスクの進捗 (Task Progress)］タブの［上記のタスク選択の結果(Results of the Task Selection Above)］ペインに表示されます。

バックアップが完了するまで数分かかる場合があります。バックアップ操作を開始した後、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを閉じて、他のタスクを実行できます。NetBackup はバックグラウンドで操作を継続します。

4

リストア

この章では以下の項目について説明しています。

- ファイルおよびディレクトリのリストア

ファイルおよびディレクトリのリストア

このトピックでは、バックアップしたものをリストアする方法を以下に説明します。

- 通常バックアップまたはアーカイブバックアップから。
- アレイベースのスナップショットからの個々の項目。

通常バックアップまたはアーカイブバックアップの手順には、次のタスクが含まれています。

- リストアを行う項目を検索します。
- 項目をリストアする宛先を選択します。
- 適切なリストアオプションを選択します。
- リストアのジョブ優先度を変更します (任意)。

他のリストア形式については、オンラインヘルプを参照してください。

ファイルとフォルダをリストアする方法

1 次のようにリストアを開始します。

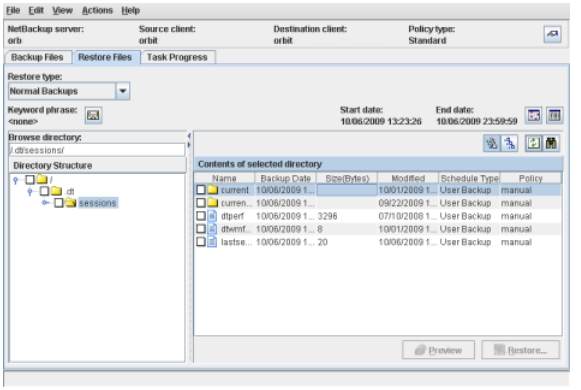
UNIX および Linux

- [リストア (Restore Files)]タブをクリックします。

  メニューバーの下の領域には、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

  - NetBackup サーバー
  - ソースクライアント
  - 宛先
  - ポリシー形式
- [リストア形式 (Restore type)]ドロップダウンリストで、[通常バックアップ (Normal Backups)](デフォルト) または[アーカイブバックアップ (Archived Backups)]のいずれかを選択します。
- [表示 (View)]>[更新 (Refresh)]をクリックします。

次に、[リストア (Restore Files)]タブの例を示します。



Windows

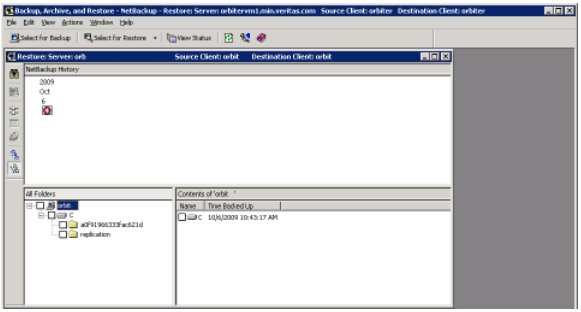
- [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]をクリックし、[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]または[アーカイブバックアップからリストア (from Archived Backup)]のいずれかを選択します。

  NetBackup によってバックアップイメージが取得され、リストア可能なファイルのリストが作成されるまでに、時間がかかる場合があります。

  ウィンドウのタイトルバーには、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

  - サーバー
  - ソースクライアント
  - 宛先クライアント

次に、リストアウィンドウの例を示します。



2 リストアする項目を選択するには、画面で項目の左側にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。

個々の項目の隣にあるチェックマークは、それらの項目が選択されていることを示します。ディレクトリ (フォルダ) の隣のチェックマークは、ディレクトリのすべての項目が選択されていることを示します。ディレクトリの隣のスラッシュマークは、その中の一部の項目のみが選択されていることを示します。

3 NetBackup でリストアを実行するために必要なリムーバブルメディア (テープなど) のリストをプレビューするには、次を実行します。

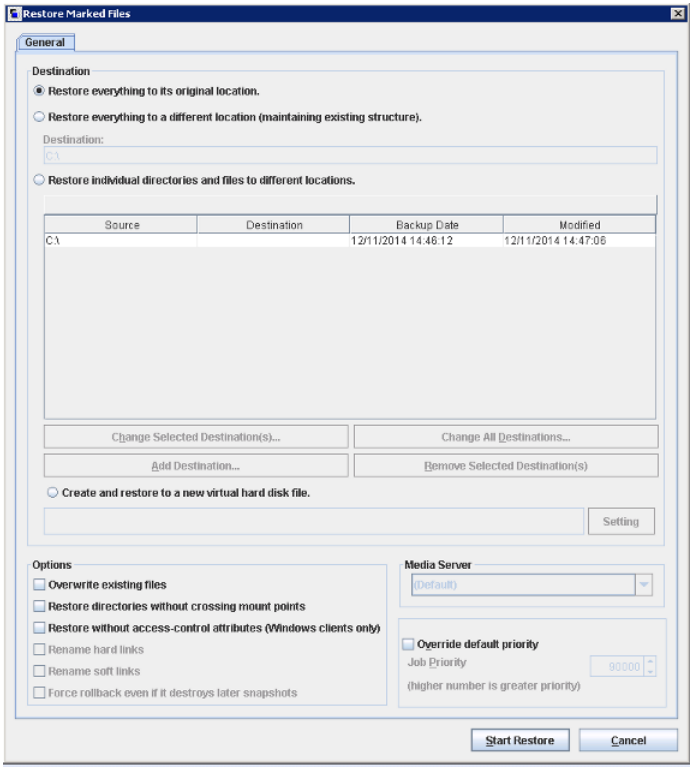
- Windows システムの場合、[処理 (Actions)]>[メディアのプレビュー (Preview Media)]をクリックします。
- UNIX システムの場合、[プレビュー表示 (Preview)]をクリックします。

リストアする項目がディスクストレージユニット上に存在するバックアップイメージにある場合は、プレビューにメディアは表示されません。

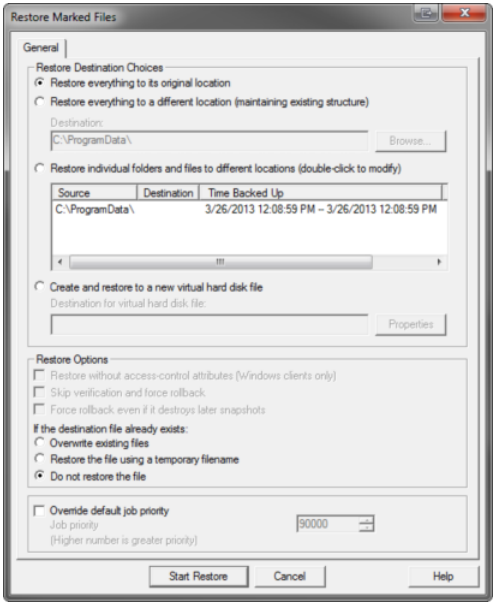
[OK]をクリックして、このダイアログボックスを閉じます。

4 選択した項目のリストア方法を設定するには、次を実行します。

- UNIX システムの場合、[リストア (Restore)]をクリックします。
  次に、[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスの例を示します。



- Windows システムの場合、[処理 (Actions)]>[マークされたファイルのリストアの開始 (Start Restore of Marked Files)]をクリックします。
  次に、[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスの例を示します。



5 ［マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)］ダイアログボックスで、リストアの要件を満たすために次のオプションを選択します。

宛先 (Destination)

次の宛先オプションのいずれかを選択します。

- 元の位置にすべてをリストア (Restore everything to its original location) (デフォルト)
- すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持) (Restore everything to a different location (maintaining existing structure))
- [個々のディレクトリやファイルを異なる場所にリストア (Restore individual directories and files to different locations)]、[個々のフォルダおよびファイルを異なる位置にリストア (Restore individual folders and files to different locations)]
- [新規仮想ハードディスクファイルを作成してリストア (Create and restore to a new virtual hard disk file)](Windows システムのみ)

各オプションについて詳しくは、ヘルプを参照してください。

リストアオプション (Restore Options)

UNIX システムでは、次のリストアオプションから選択します。

- 既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)
- クロスマウントポイントなしで、ディレクトリをリストア (Restore directories without crossing mount points)
- アクセス制御属性なしでリストアする (Windows クライアントのみ) (Restore without access-control attributes (Windows clients only))
- ハードリンクの名前の変更 (Rename hard links)
- ソフトリンクの名前の変更 (Rename soft links)

Windows システムでは、次のリストアオプションから選択します。

- アクセス制御属性なしでリストアする (Windows クライアントのみ) (Restore without access-control attributes (Windows clients only))
- 既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)
- 一時ファイル名を使用してファイルをリストア (Restore the file using a temporary filename)
- ファイルをリストアしない (Do not restore the file) (デフォルト)

各オプションについて詳しくは、ヘルプを参照してください。

ジョブの優先度 (Job Priority)

[デフォルトの優先度を上書きする (Override default priority)]チェックボックスをクリックして優先度番号を設定することによってこのリストアの優先度を変更できます。

デフォルトは 90000 です。利用可能な範囲は 0 から 99999 です。数字が大きいほど優先度は高くなります。

この機能について詳しくは、ヘルプを参照してください。

6 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。

7 リストアの進捗状況を表示するには、次を実行します。

- Windows システムでは、表示される[状態の表示 (View Status)]ダイアログボックスで、[はい (Yes)]をクリックします。
- UNIX システムでは、表示される[タスクの進捗 (Task Progress)]タブで、[はい (Yes)]をクリックします。

メモ: バックアップジョブの進捗ログはデフォルトのログファイルに格納されます。ジョブのデフォルトのログファイルのパスは[タスクの進捗 (Task Progress)]タブの[上記のタスク選択の結果(Results of the Task Selection Above)]ペインに表示されます。

リストアが完了するまで数分かかる場合があります。リストア操作を開始した後、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを閉じて、他のタスクを実行できます。NetBackup はバックグラウンドで操作を継続します。